日立市立大みか小学校

Ⅰ　実践

1　研究主題

差別や偏見をなくす人権尊重の精神を養い，一人一人が互いに認め合い，助け合うことのできる児童の育成

（1）主題設定の理由

本校は，「やさしく　さとく　たくましく　共に輝く大みかっ子の育成」を教育目標として掲げている。学校教育全体を通して人権尊重の精神を高め，差別や偏見をもたずに誰に対しても公平にふるまう生活態度を育てるため学校を挙げて取り組んでいる。また，各教科・道徳・特別活動等の特質に応じた教育活動全体を通して，人権が尊重され安心して過ごせる学校・教室を目指し，地域の教育力の活用や体験的な活動の導入，学習形態の工夫に努めている。

本校の児童は，明るく素直であり，思いやりのある言動が多く見られる。しかし，自己中心的な行動や他者の考えや気持ちを受け入れられず思いやりに欠けた言動をする児童もいる。

そこで，学校の教育活動全体を通して，一人一人が互いを認め合い，思いやりの心をもって助け合うことのできる児童の育成を図るため本主題として設定した。

（2）研究の内容

ア　特別活動，道徳，外国語活動，総合的な学習の時間を中心とした学校の教育活動全体における人権教育の充実

イ　豊かな体験活動の展開

2　実践内容

（1）　特別活動，道徳，外国語活動，総合的な学習の時間を中心とした学校の教育活全体動における人権教育の充実

ア　情報モラル講習会

１～３年生・４～６年生と保護者が参加した情報モラル講習会を行った。スマートフォンやインターネットによる人権侵害やトラブル等の事例をもとに，どう行動すればよいのか学習した。

イ　特別活動や外国語活動，総合的な学習の時間等の実践

（ア）「世界の環境問題をしらべよう」（５年生）

世界で起きている環境問題にについて調べ学習をした。地球温暖化・不法投棄・リサイクル等のグループに分かれ、今年度から配布されたタブレットを用いてパワーポイントを作成した。始めはパワーポイントの使い方に戸惑っている児童が多くみられたが，徐々に操作に慣れ，自分の考えを積極的にタブレットにうち込んでいる姿が見られた。

（イ）外国語活動（１～４年生）

全学年で行っている外国語活動では，外国語の学習を通して，その言葉や文化について体験的に理解し，コミュニケーションを図ろうとする態度を育てている。学生ボランティアと一緒に楽しく取り組むことでコミュニケーションの大切さをより知ることができた。

（ウ）　ＩＣ　Ｗｉｔｈ　Ｕ　プロジェクト（６年生）

茨城キリスト教大学による，多文化交流事業に参加した。５国のブースに分かれ，それぞれのブースに自由に訪問し，それぞれの国の文化に触れ，それを認め受け入れられる機会を設けた。児童は皆，興味関心をもって話を聞いたり質問したりしていた。

ウ　全校集会

例年，「1 年生歓迎集会」「4 年生を励ます会」「6 年生激励会」等の集会活動を通して，相手の頑張りを励まし合ったり，互いに仲良くしたりして，児童同士の相互理解を深めている，今年度は「一年生歓迎集会」のみ行い，他はコロナウィルスのために実施できなかった。

エ　異学年集団との交流（縦割り遊び）

毎月第３木曜日のロングの昼休みを利用し縦割り遊びを実施している。６年生を中心に，異学年のメンバーが仲よく活動する姿が見られた。上級生も下級生も互いによい影響を与えている。

オ　あいさつ運動

全学年であいさつ運動に取り組んでいる。あいさつ運動を通して，気持ちのよいあいさつへの関心が高まっている。自分から挨拶をする児童が増えている。また，立哨指導の保護者やセーフティパトロールの方への挨拶も励行している。

カ　募金活動

全学年で，赤い羽根共同募金活動に取り組んだ。今年度も，自分たちの住む町のために多くの募金が集まった。

キ　学級活動（コロナ禍における人権指導）

各学年の発達段階に応じて，感染症対策や自分や他社が感染してしまったときの言動について話し合う活動を行った。人の傷つくことを言ったりしたりしないようにする大切さについて真剣に話し合っていた。

（2）豊かな体験活動の展開

ア　読書週間

本校では「年間一人５０冊を読もう」の目標を掲げ取り組んでいる。図書館教育主任が中心となってアイデアを出し，児童の読書への関心・意欲が高まるようなイベントを例年企画している。今年度も昨年に続き，感染症予防のため学級単位での取り組みが主となったが，多くの児童が図書館を利用し，５０冊以上の読書を達成した。

イ　ＰＴＡによる絵本読み聞かせ

11 月にＰＴＡの方による読み聞かせ学習を行った。１～4 年生の児童が参加し。本を読むこと，聞くことの大切さを知ることができる機会だった。

ウ　愛校作業

皆遊タイム（ロングの昼休み）を利用し，校庭の清掃や花壇の手入れを行っている。学年単位で活動を分担している。自分たちの学校をきれいにしようと協力する姿が見られた。季節ごとに色とりどりの花を咲かせる活動は，児童の情操教育に大きな効果があった。

3　成果

様々な活動を通して，児童は自分の大切さと他の人の大切さについて学ぶことができた。今年度はオンライン学習や分散登校期間もあり，昨年に続いて実施できる行事が少なく残念だった。しかしながら少ない行事の中でも児童達は，一つ一つの行事に積極的に参加することで互いを認め合い助け合うことのできる児童が増えた。

Ⅱ　今後の課題

・人権について考える場や体験活動を更に充実させて，自己や他者を大切にする人権感覚を育て，日々の学校生活の中で実践できる児童の育成を図っていきたい。

・家庭・地域への啓発をさらに充実させて，学校・家庭・地域が一体となり人権教育に取り組めるように努めたい。